2021 年度　一般選抜中期日程/経済・公共マネジメント学科　英語
出題の意図と解答の傾向

英語を実際に使用する能力が身についているか否かを知るために設問も英語とした。
（説明が必要なレベルの英単語については、日本語で意味を補足した。）

Ⅰ （１６０点）

問１（２０点）

【解答例】

（スコットランドで）小さいおばあさんがコテージの前に座って、織機を使って手でカシミアを編んでいるという空想

【解答の傾向】

第一段落の内容を理解した上で、fantasy という抽象的な語が指すものを把握し日本語で説明できるかを問う問題。

fantasy という単語のひびきから、またその後の英文の内容から、基本的には「おばあさんが小屋の前でカシミアを手で編んでいる」という、ほのぼのとした光景が記述されているものを配点通り満点とし、それ以外の強調点、例えばカシミアのセーターそのものについて、またおばあさんが小屋の前に座っている状況等を明示しているものは部分点を与えた。

全体的には出来栄えが良かった。大部分の解答は上記の基本的な内容を押さえていた。したがって採点は模範解答に沿った減点法とした。まず、最も多い減点例として、a little old lady を「少し年をとった婦人」との訳出で 7 割程度、次いで少数ではあるが by hand の訳出がないもの、最後によく見られた「編んでいる」の目的語のカシミア（のセーター）が明示しないものが挙げられる。また、cottage を「別荘」と訳したものが非常に多かった。結果的に 15 点前後の得点が圧倒的に多かった。

空想の内容ではなく、空想をするという前提を記述しているものも少なからずあり、低得点の解答に多く見られた。その大部分が「スコットランドでデザインされているので」「有名なスコットランドの会社によるものなので」と記述していた。

問２（２５点）

【解答例】

たとえその会社が実際に法を破っていないとしても、「スコットランドでデザイン」されたと書かれたラベルは非常に誤解を招きやすい。

【解答の傾向】

第一段落のカシミヤセーターとラベルの話から、話題がグローバル規模で製品が生産・販売される場合の「からくり」へと変化していることを把握し、かつ、such a label が指す内容を理解しているかを問う、複合的な課題をクリアする必要のある和訳問題。

正答率は 20%弱。多くの受験生が、従属節と主節の構文を把握でき、even if の従属節を正しく和訳する一方で、若干ながら、それが理解できなかった解答も見られた。従属節（S is not ～）を過去形で訳したり、actually や misleading を訳せなかったりする解答も多くみられた。

（ただし、misleading の場合、その意味が分からずとも文脈から近い意味を推察するものも多くあった。）

“such a label”に関しては、「(100%) スコットランドでデザインされた（“[100%] Designed in Scotland”)」と書かれたラベルと把握し、その上でこうしたラベル（表示等）を主語として訳出できた解答は一定数にとどまった。「スコットランドで製造されたラベル」や label を不明確に訳したり意訳したりする誤答も目立った。

また、問１で Explain～という指示があったからか、問題に Translate～と書かれているにも関わらず「和訳」を行なわず、「～ということ」など「説明」した解答もみられた。

問３（１０点）

【解答】

a (The clothes were not produced in England or Scotland.)

【解答の傾向】

第一段落での「導入部分」から徐々に経済的な「本論」に入り、その中で製品がラベルに書かれた地域で生産されたのではないことを、比喩的な表現（they have never touched the shores of England or Scotland.）で述べている事実を理解できるかを問う問題。

３分の２の解答が、本文のこの比喩的表現を正しく理解して a と解答していた。その一方、d と答えたものが２割弱、b と答えたものも１割弱見られた。

問４（１０点）

【解答例】

ある工場では、労働者がこの苦境を終わらせたいと飛び降りた時に備えて、経営陣（会社側）は高いところにある窓や壁のない廊下の下にネットを張らなくてはならなかった。

【解答の傾向】

製造過程に見られる「企業－労働者」の関係と企業側の搾取の事実を本文から理解し、その状況が招いた「労働者の苦しい状態」が it であることを念頭に置いた上で、英文を日本語に訳すことができるか否かを見る問題。

本設問は、it の意味するところを明らかにした上で訳出し、かつ、trying 以下が修飾している言葉を探し出す必要がある。それが直前の workers だと気付いた解答者は、「労働者」が「it を終わらせようとしている」のだとすぐに理解して、素直に訳文を作成することができたはずである。しかし、the management が trying の行為者だと思いこんでしまうと、「経営管理者」が「it を終わらせようとしている」ことになってしまい、前後の文脈に沿うよう訳するにはかなりの無理があったようだ。try しているのが「誰」なのか、動詞に対する意味上の主語を見つける英文読解の基本を問うた問題である。

また、had to の訳を「～すべきであった」とすれば、実際は「しなかった」ことになることにも注意。ここは経営管理者が「しなければならなかった」（つまり「した」）のであるから、それがはっきり分かる訳出をしてもらいたい。

問５（２５点）

【解答例】

中国人労働者が低賃金でアップル・コンピューターや iPad を作っているから、それらを安く買えるということ。

【解答の傾向】

「私」と「友人」の会話全体から、I が理解する「人気の製品（今回は Apple 社の製品）が比較的安く買える理由」の要点を日本語で的確にまとめられるかを問う問題。

まず、“US workers”を「イギリス人労働者」とする誤答が多数あった。

次に、解答の趣旨は、「中国人労働者が低賃金で作ってくれているから安く買える（高賃金の米国人労働者が作ったならば高価で買えない)」ということ。ここで「友人」の「私」に対する発言の趣旨は、「中国人労働者が低賃金で作ってい**ない**ならば、高価となり、買え**ない**」ということ**ではない**ことに注意。従って、「中国人（あるいはその他の国々の）労働者が安い賃金で働くこと」を「アップル製品を安く購入できる」ことの**必要（不可欠）条件**とする解答には点を与えなかった。たしかに、「友人」は“Perhaps you couldn’t enjoy them if they were not made by Chinese workers”と言っている。しかし、これは相手の意表を突くためのレトリックなので、ここだけを和訳しても正答にはならない。よって、この内容に本段落の後半部分を要約し加えるといった、段落を俯瞰的に捉える解答には点を与えた。文章を表面的に読むのではなく、時間の許す限り丁寧に読み込んで解答することが重要である。

問６（２５点）

【解答例】

It used to take many days to hand-weave a very high-quality cloth for a wedding sari.

【解答の傾向】

高校で培う文法能力・語彙能力を問う英訳問題。ポイントは主語が「人」でなく「行為」(「サリーを織ること」）であるので It ~ to V 構文（あるいは~ing や「to 不定詞」といった、動詞を名詞に変化させる用法を使った主語）を用いること、そして、「(時間が）かかる」の take や「～したものだった」の used to V を活用すること。

正答率が極めて低かった。全体の８割ほどが It ~ to V 構文を使い、若干名が動名詞や「to 不定詞（名詞的用法)」を主語にし、動詞を文末に置いていた。It ~ to V 構文を使った解答の中には to の後が不定詞でなかったり、It ~ that S V 構文と混同したりするものが散見された。また、used to を使用した解答がほとんど見られず、wedding という単語を使った英訳も少なく、約７割が「多くの日」を long time(s)や many time(s)などとしていた。

加えて、半数弱が「結婚式用のサリー」を「サリーの結婚式のために」という内容に変換して英訳していた。この下線部の上に、saris (traditional dress for women)や Indian village という語を含む、ヒントとなる文章があることから、これらの誤答はエッセイの内容を理解していない、あるいは、下線部の日本語だけを読み英訳したことが原因だと考えられる。英語の技能だけでなく、世界史や時事問題、文化などの一般常識があれば、この間違いは起きないはずだ。

問７（１０点）

【解答】

d (unknowingly they were buying a Japanese product)

【解答の傾向】

全体の文章の流れに即して必要となる基本的な英単語を選び、文法的に適切な形にして答えることができるかを問う問題。この問題には文章読解力と文法能力の両方が求められる。

正答率は約７割。問題文全体の流れを汲み、これまでの内容に類似した「別のパターンの話」を用いた、いわゆる「オチ」となる段落。最終段落で急に戦後の日本の話題になるので、この部分までの内容を把握していないと戸惑い、ここでも“Made in ~”と“Designed in ~”の問題について述べていると推測してしまう。故に、誤答のほとんどがｃだった。

問８（２０点）

【解答】

Ａ）guarded　　Ｂ）looking　　Ｃ）featuring　　Ｄ）come

【解答の傾向】

全体の文章の流れに即して必要となる基本的な英単語を選び、文法的に適切な形にして答えることができるかを問う問題。この問題には文章読解力と文法能力の両方が求められる。

全問正解はほぼおらず、正答率が高かったのはＡのみ。Ｃは正しい単語は選べるものの、適切な語形に変化させることができず、正解が featuring であるところ、featured、あるいは feature とする誤答が多かった。次いでＢに look を選ぶ傾向がかろうじて見られたが、そのほとんどの場合、語形変化が正しくなされなかった。Ｄには文脈上適切でない単語が選ばれることが多かった。

Ⅱ（４０点）

【出題の意図】

この問題を通じて受験生は意見や理由を明確に述べられるか、限られた時間内にアイデアを十分に展開させられるか、段落を論理的に構成できるか、また高校までに学習した英文法、英語表現等を用いてそれらを英語で表現できるかを見た。「内容」「構成」「言語力」を中心に、40 点満点で解答を総合的に採点した。

「内容」については、意見や理由、詳細を十分に説明し、論理的に展開させているかを中心に評価した。「構成」については、論理的展開になっているか、そうさせるための「つなぎのことば（接続詞、接続副詞、指示語句など）」が正確に、また効果的に使われているかどうかを中心に評価した。「言語力」については、解答を読んで意味が理解できるかどうか、文法・語彙・綴り・句読点が正確に適切に使われているかどうか、難しい言い回しや語彙を使おうとしているかどうか、使った場合はどのくらい正確に使えたかなどを中心に評価を行った。

【解答の傾向】

まず、they を使うなど文章の主語が明確でなく、それにより何を伝えようとしているのかが理解できない英文が多く見られた。また、論述の始まりを There are two reasons 等にすべきところを「私(I)」を主語に用いるものや、Because I have two reasons と文脈上誤った表現を用いた文章が非常に多かった。discourse maker の使用では Firstly や First 等ではなく At first と記述する間違いが多く、次に、I disagree this opinion、products made from other countries などと前置詞の間違い・前置詞を用いないケースが多く見受けられた。

その他の文法や語彙に関しては、比較級の誤り、否定文や疑問文で使うべき many や much を肯定文に使うパターン、wage/income、work/job、safe/safely、labor と laborers/workers の混同、「人々が少なくなる」=「人の数が減る」という英語的表現に変換できず the number of people を用いない文章、さらに、基本的な their/there/they の区別を付けられない等の問題が散見された。

「因果関係」の表現についても、「COVID-19 によってダメージを受けている国々」は many countries have been damaged by COVID-19 とすべきだが、COVID-19 has damaged many countries、または受動態を使用できずに意味の通らない文章になっているものがあった。